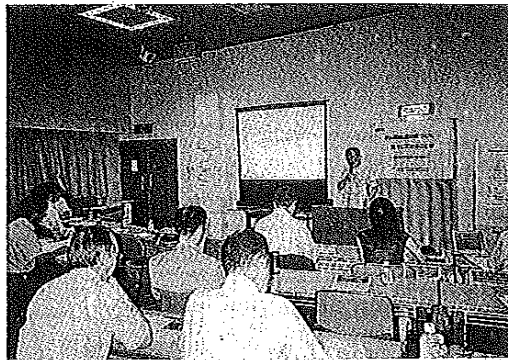


「中山間地域の郷づくり」学ぶ 建コン協九州と共助研



（出建設コンサルタンツ協会九州支部（山本洋一支部長）・九州郷づくり共助ネットワーク研究会（共助研、針貝武紀会長）は8月31日、福岡市の八重洲博多ビルで勉強会「中山間地域の郷づくり、

我々にできることは」写真Ⅱを開催。約40人が参加するなか熊本学園大学の小川全夫教授による基調講演、意見交換などを行った。

共助研は、夢アイデア実現化プロジェクトの一環として九州の農山漁村地域の再生を目指しており、針貝会長は「より良い九州づくりへ実践で社会貢献するためGIS活用など経験とノウハウを蓄積しているところだ。九州地方整備局の地域の存続・再生に関する検討委員会で委員長を務めた小川教授の協力を得ての勉強会は意義深く、広く建設技術者の参加を呼びかけた」とあいさつした。

小川教授は、永年にならたって我が国における地域社会学、中山間地域政策を先導、過疎法改正等集落支援政策の策定にも関わっている。

基調講演「中山間地域政策の動向」のなかで、

人口減少が最も深刻な問題だとする一方、農林水産省の「中山間地域等直接支払い制度」が第3期対策に入ったこと、総務省主管の過疎法が改正、延長されたことなどから2010年を中山間地域の転機として位置づけ、その変遷を説明。今後は、中山間地域の住民の生活をさりげなく支援する地域の仕組みを、ハイテクを応用しながら構築することが必要となると結んだ。

この後、基調講演に対する質疑応答、意見交換を行い、中山間地域支援に向けたネットワーク形成、及び自立した組織作りに向けた取り組みの深化を探った。